

「大学礼拝」

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

大学礼拝

WORSHIP SERVICE

大学礼拝は、聖書が神の言葉として公に語られる時であり、また、東北学院大学が神の前で自らの本質的意義を再確認する時です。「礼拝から出発して礼拝に帰る」が東北学院の基本姿勢です。それゆえ、余った時間でなく「番良い時間を礼拝に捧げています。大学礼拝の概要についてご紹介いたします。

チャイムが礼拝の時を告げると礼拝堂からオルガン前奏の音が響いてきます。礼拝堂の最前列から順に着席して下さい。毎日行われている礼拝

の始まりです。心を静め礼拝司会者の言葉に耳を傾けて下さい。

〈讃美歌〉礼拝参加者(会衆)が讃美歌を歌うようになったのは、ルターの宗教改革からです。それ以前は聖職者だけの特権でした。讃美歌の歌詞を味わいながら声高らかに歌って下さい。

〈聖書〉聖書の構成は、前半四分の三が旧約聖書、後半四分の一が新約聖書です。それぞれに頁数が付されており、例えば、五〇頁の場合、旧約聖書か新約聖書かを指定しなければなりません。旧約聖書の言語はヘブル語、新約聖書はギリシャ語です。諸国の言葉に訳され

礼拝に使用されるようになるのは、宗教改革以降のことです。日本語訳の聖書の普及は最近のことです。

〈説教〉神の言葉がこの世に対して公に宣言される時です。話しての経験や思想を披露する講演と根本的に違います。聖書の言葉は、歩むべき道を照らしだすともじびとして私たちに臨みます。特に重要なことは、イエス・キリストの十字架に表わされた神の愛や救い(福音)が告知されることです。

〈祈り〉礼拝司会者は、説教の言葉だけでなく、神の恵みや平安や祈りを執り成します。祈りの最後の「アーメン」は、英

新入生歓迎号

CHAPEL NEWS



第104号 2008年4月

東北学院大学宗教部

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号

TEL (022) 264-6428



宗教部長
佐々木 哲夫

語やギリシャ語やヘブル語に共通して見出される言葉で「真実です」の意味です。祈りを共有するしるしとして、会衆の皆さんも最後に「アーメン」と唱和して下さい。

〈頌栄〉神の栄光をたたえる短い讃美歌です。頌栄の後、黙禱を捧げます。オルガン後奏は「派遣」の意を込めて皆さんの退場時に奏します。

各キャンパスのメッセージ

Izumi

泉キャンパス

大学宗教主任

永井 義之



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。
 大学生としての歩みがいよいよ始まります。高校までの間、さまざまな制約があったてなしえなかったことをこれからはやるぞと意気込んでおられることと思います。是非、自分の頭で考え、自分らしいスタイルを確立していただきたいと思えます。大学はそのような生き方をするのに適した環境です。受験体制の中ではあまり考えることのなかったこと、たとえば古典的テーマである、人生とは何かとか、人間とは何かとか、世界はどうなっているのか等々考えはじめればいくら時間があっても足りない大問題が次々と思ひ浮かぶことでしょう。大学での諸設備、教師や友人とのかわりなどを大いに利用して自分という人間を確立する充実した大学生活を送られるよう応援をしたいと思います。礼拝の時間も自分を振り返り、皆さんがいろいろ考えるヒントを得る場として積極的に活用してください。

Tagazyo

多賀城キャンパス

キリスト 教学科

佐々木 勝彦



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。
 この大学に入って最初に驚いたこと、それは「大学礼拝」ではないかと思えます。「これは何だ?」「どうすればいいの?」といった声を発したはず。皆さんは、この得体の知れないプログラムに巻き込まれながら、実は二千年以上も続いてきた「人類の知的平和遺産」に遭遇しているのです。
 分からないことに出会ったとき、その人の成熟度があらわになります。不可解な事態の前に、冷静に観察し、その中で自分の第一印象を客観化しようとすることが大切です。
 学問が皆さんに約束するもの、それはこのよりの普遍的な認識へと導くことに他なりません。「礼拝」とは、究極的意味に出会う瞬間です。どうぞ、最初の驚きと、疑問を大切にしつつ、冷静に観察しつつ、新たな自分を発見してください。

Tsuchitoui

土樋キャンパス

大学宗教主任

北 博



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
 また、三年生に進級して泉キャンパスから土樋キャンパスに移られた皆さん、ようこそ土樋キャンパスへ。土樋キャンパスのラーニング・ザ・礼拝堂では、学期中の日曜と祝日を除く毎朝十時から十時半まで、礼拝が行なわれています。またそれ以外に、水曜日の午後七時一〇分から七時四〇分まで、特に夜間主コースの方々のために礼拝が行なわれます。礼拝は東北学院大学の教育の重要な環ですから、是非出席するよう心がけてください。
 新学期が始まりました。勉学も、運動やサークル等の活動も、全力で取り組んで下さい。それから、本を出来るだけ沢山読んで下さい。常に問題意識を持ち、自分で考え、答えを見つけて下さい。
 「草は枯れ、花はしぼむが／わたしたちの神の言葉はとこしえに立つ。」(イザヤ書四〇章八節)

キリスト教 Q & A



1 キリスト教大学って何？

戦後、新制大学がスタートするとキリスト教学校も制度を整え、キリスト教大学が公教育の一端を担うようになりました。これは特に戦後の日本国憲法を基礎に置き教育基本法において明示された「人格の完成を目指し、平和的な国家及社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成をする」という理念の実現にキリスト教大学こそが応えようとの確信によるものです。

(永井 義之)

近代日本の教育の歴史を振り返って見ると、欧米列強に伍するため、国民教育の目標は富国強兵にありました。特に大学を設置することによって有能な官吏を養成することに第一の目標が置かれました。ですから、国立の大学は全て男子のみで、そこで専門的な職業訓練、学術研究がなされました。これに対し、私塾的なものからスタートした私立学校は官立校がまだ目を向けていなかった幼児教育、女子教育等にパイオニア的役割を果たしました。高等教育に関しても、私学は専門学校という形で「教養」即ちリベラル・アーツを基本とする教育が行われました。

明治十三年、「訓令十二号」という文部省通達が出され、キリスト教学校に致命的打撃を与えました。これは、宗教教育、宗教儀式をすれば文部省認可の学校と認めないというものでした。従来公認の「学校」では上級学校進学資格と徴兵猶予の特典が与えられていましたから、それらを放棄しても聖書の教育と礼拝を捧げる道をキリスト教学校は選びとったのです。

2 礼拝で学生番号を読み取るのは何のため？

東北学院大学の学生は、大学礼拝に参与するはずであることが期待されています。即ち、大学礼拝に参与することは、東北学院大学の学生の特権であり、また、東北学院のアイデンティティそのものなのです。

東北学院大学は、大学礼拝に対し無関心ではありません。見いだした価値にふさわしく、私達の熱情や努力を捧げたいと願っています。それ故、今、どのような大学礼拝が行なわれているかをきちんと把握すること、例えば、学生番号の読み取りで大学礼拝出席の状況を把握することは、自己評価の責任を担う第一歩でもあると考えています。皆さんの大学礼拝への参与は、見過ごされるのではなく、確かに覚えられているのです。

(佐々木哲夫)

東北学院大学の高等教育機関としての営みは、人間の知恵や力量だけでなく、神の愛とめぐみによって導かれていると認識されています。そのような自己認識は、大学設置の基本理念であり、また、東北学院創立以来二十二年の歴史と伝統の中で保持されてきた建学の理念です。大学礼拝は、そのような東北学院大学固有の価値観、換言するならば、東北学院の建学の精神を具体化する公の行事です。しかも、礼拝は、仙台神学校創立以来、毎日行われる営みの一つになっております。

東北学院大学は、余った時間ではなく、価値を見いだした対象にふさわしい最良の時間をもって礼拝を執行しています。それ故、その時間に対し、教育機関としての責任があります。また、東北学院大学の学生は、大学礼拝に参与するはずであることが期待されています。即ち、大学礼拝に参与することは、東北学院大学の学生の特権であり、また、東北学院のアイデンティティそのものなのです。

3 キリスト教学はなぜ必修なの？

私達の人生と社会の根本に神との関係によって理解され、産み出されてきた様々な制度や構造があることに気づいているでしょうか。例えば、法治国家としての規律、秩序、契約という概念や、さらに民主主義や資本主義、教育制度、医療・福祉制度、あらゆる領域がキリスト教世界から生み出されて発展してきたものであることを否定することができないのです。そこで、私たちは、広くキリスト教の教えとその世界観を学ぶことによって、私たち自身と現代社会を豊かに学ぶことができるのです。そういう点で、皆さんも、このような視点から礼拝を重んじ、キリスト教学を積極的に学んでいくって欲しいと思います。

(野村 信)

東北学院大学へ入学した皆さんが、毎日の大学礼拝に出席し、キリスト教学を学ぶことは、東北学院大学の学生であることの証しであり、またこれを前提条件として大学に入学してこられたのです。そこで、キリスト教学が必修なのは、本学の方針であるとまず説明できます。

しかし、二番目に、なぜキリスト教学が必修なのかは、もっと基本的な理由があります。

そもそも日本の教育制度は、明治維新の後に、キリスト教の世界から産み出された西洋近代教育を学び、これを採用してきましたので、この教育制度の生みの親たるキリスト教について学ぶことは、教育、学問の根底をなす学びであると説明できます。

第3回「学生のためのオルガン公開講座」のお知らせ



大学オルガニスト

今井 奈緒子

この講座は、礼拝の楽器として用いられているオルガンに親しみ、演奏することを目的としています。専門家である本学の礼拝オルガニストが、各キャンパス礼拝堂のオルガンを用いて指導します。

単位に関係のない講座ですので、卒業まで継続して受講することも可能ですし、受講場所も開講時間に合わせて、在学中のキャンパスに関係なく希望することができます。

◆受講資格

・楽譜を読むことができ、鍵盤楽器の演奏に多少なりとも心得があること
・レッスン、練習に真剣に取り組み意思のあること

◆対象

本学に在籍する学生（所属学部、学部生）
・大学院生を問わず

◆内容

オルガンの奏法と作品を学ぶ（個人またはグループレッスン形式）
ガイダンスと修了演奏会を実施します。

◆場所

土樋・多賀城・泉、各キャンパス礼拝堂

◆受講料

年間 一五、〇〇〇円

◆期間

五月～十一月（レッスンは月二回ペースで八回実施。その他自主練習、演奏会準備）

◆募集人数

各キャンパスにつき若干名

◆講師

小野なおみ

（土樋担当。礼拝オルガニスト）

菅原 淑子

（多賀城、泉担当。礼拝オルガニスト）

今井奈緒子

（泉担当。教養学部教授。大学オルガニスト）

◆ガイダンス開催日

受講希望の方は所属キャンパスに係わらず全員、四月二四日（木）一四時三〇分に、泉キャンパス音楽研究室（礼拝堂一階。シラバス参照）前へお集まりください。ガイダンスの後に受講の意思確認をし、講師との顔合わせ、レッスン日の相談、調整等を行います。

出席不可能な場合は事前に宗教音楽研究所までご連絡ください（〇二二・二七五・二八五）。なお、希望者多数の場合は相談、抽選ないし後日オーディションをさせていただきます。ただく場合がありますのでご了承ください。

編集後記

新入生諸君の緊張した表情を見ると、だれもみんなさうだったなあとと思います。やがて緊張が解けて、思い思いに走り出す頃、緊張していた顔の裏側で考えていた決

意とか、自分はこのころするぞという希望にあふれた思いとかを忘れないでください、そして大学生活を満喫してください。

2008年度 礼拝オルガニストの皆さん

●東北学院大学オルガニスト●

今井 奈緒子

●東北学院大学礼拝オルガニスト●

阿部 和子	稲垣 玲子
大泉 真理	小野 なおみ
亀井 睦子	京極 美恵
坂上 美恵	佐々木 しのぶ
鈴木 有紀	菅原 淑子
高橋 園子	長谷部 真理
渡辺 真理	

